

学校規模適正化について

少子化、学校施設老朽化が進むなか、児童生徒の教育環境の維持向上及び小中一貫教育への取組を見据えて。

学校教育環境、施設の課題

学校の解決すべき課題（概要）

①児童生徒数・学級数の変化

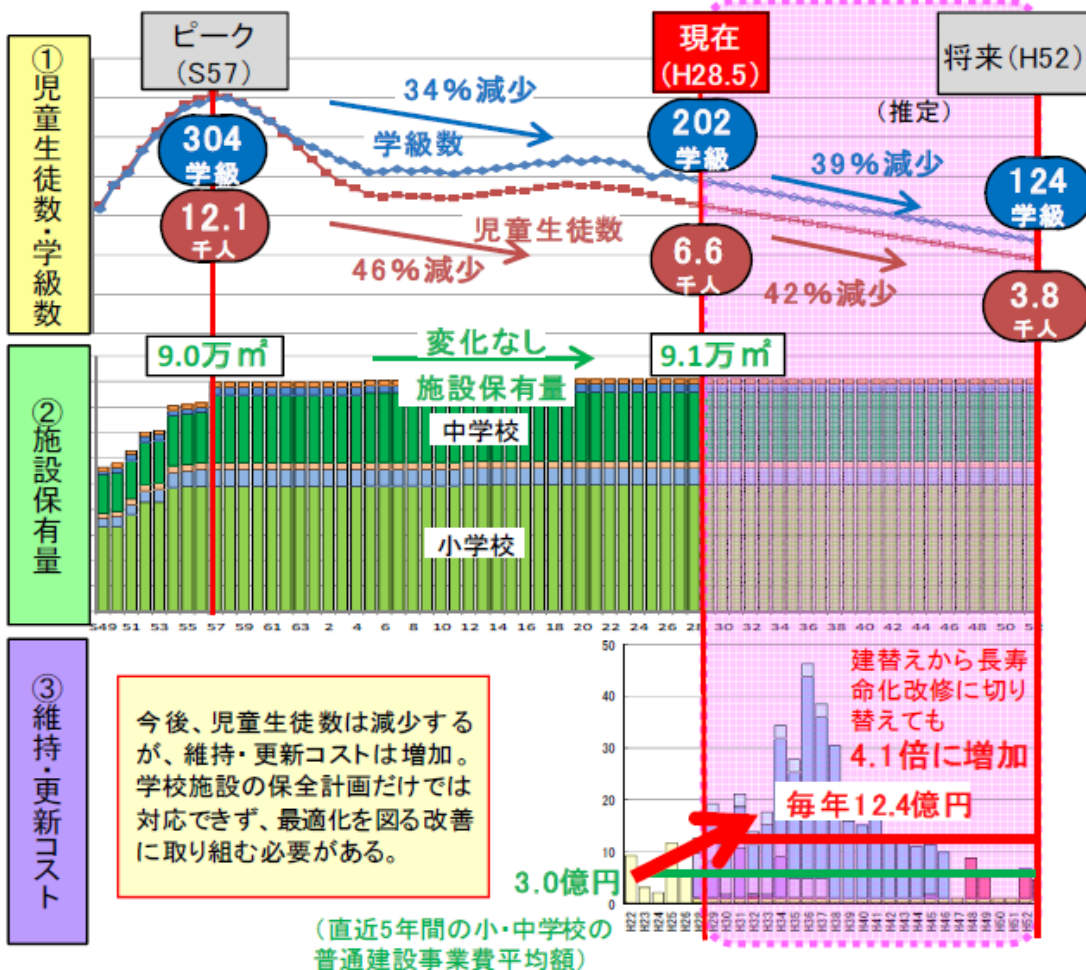
- 児童生徒数は昭和57年のピーク時からおよそ半分に、学級数はおよそ3分の2になっており、今後も大幅に減少する見通しである。

②施設保有量（床面積）

- ピーク時より児童生徒数はおよそ半分に減少しているが、学校の施設保有量は、ピーク時に整備した面積からほぼ変化がなく、既存施設の老朽化が進行している。

③今後かかる維持・更新コスト

- 今後、既存学校施設を維持していくための修繕・改修に係るコストは、建て替えを行わない場合であっても、過去5年間の小・中学校普通建設事業費の平均額を大幅に上回る見込みである。



交野市の学校施設対応の方向性

早急な対応が必要な課題

児童生徒数・学級数の減少

ピーク時のまま残された学校施設保有量

老朽化⇒長寿命化又は建替えの必要性
維持・更新コストの増大

- 児童生徒の教育環境の維持向上を目指す

学校規模適正化基本方針
(H28年度策定予定)

- 住宅開発等社会的要因を加味した、地区ごとの生徒児童数の将来推計
- 今後の維持管理コストの試算
- 市財政制約との整合調整
- 学校施設再配置検討
- 複合化の可否検討 等

学校規模適正化基本計画
(H29年度策定予定)

地域毎の学校の在り方・配置検討
⇒施設整備事業実施

学校に求められている事

小中連携・一貫教育の推進

防災機能等、地域コミュニティにおける役割

公共施設としての、行政必要機能の複合化

学校教育ビジョンの実現

公共施設の複合化の方針等も踏まえ
学校施設の個別計画策定

公共施設等総合管理計画
(H28年度策定予定)

➤ 学校規模適正化基本方針(H28年度策定予定)

児童生徒の教育環境の維持向上を図る視点にたち、交野市における適正な学級数、通学距離等について基本的な方針を定める。

➤ 学校規模適正化基本計画(H29年度策定予定)

基本方針に基づき、市域全体の学校規模適正化に向け、小中一貫教育の推進、施設の複合化等も視野に入れた基本計画を定める。対策が急がれる地域にあっては、可能であれば、具体的なモデル事業までを想定。

➤ 学校施設等管理計画(H29年度策定予定)

学校施設の老朽化調査、長寿命化の可否等を踏まえ、今後数十年にわたり学校施設を計画的に管理していくための計画を策定し、管理台帳を整備する。

学校規模適正化、再配置のスケジュール(案)

H28	H29	H30～H31	H32～
<ul style="list-style-type: none"> • 学校規模適正化基本方針策定 • 教育委員会 基本方針の審議・決定 • 学校教育審議会 中間答申 • 適正な学校規模の基本方針案パブコメ • 学校教育審議会へ諮問↓審議 • 学校規模適正化アンケート調査 • 学校施設老朽化度調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校施設等管理計画策定 • 学校規模適正化基本計画策定(含モデル事業) • 教育委員会 基本計画の審議・決定 • 学校教育審議会 答申 • 学校規模適正化基本計画案のパブコメ • 学校教育審議会 学校施設再配置等審議 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業予算措置 • 事業実施手法決定 • 民間活力(PFI等)活用の可否検討 • 地元地区協議調整(ワークショップ等開催) • 基本計画に基づき、事業実施に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> • モデル地区整備事業開始